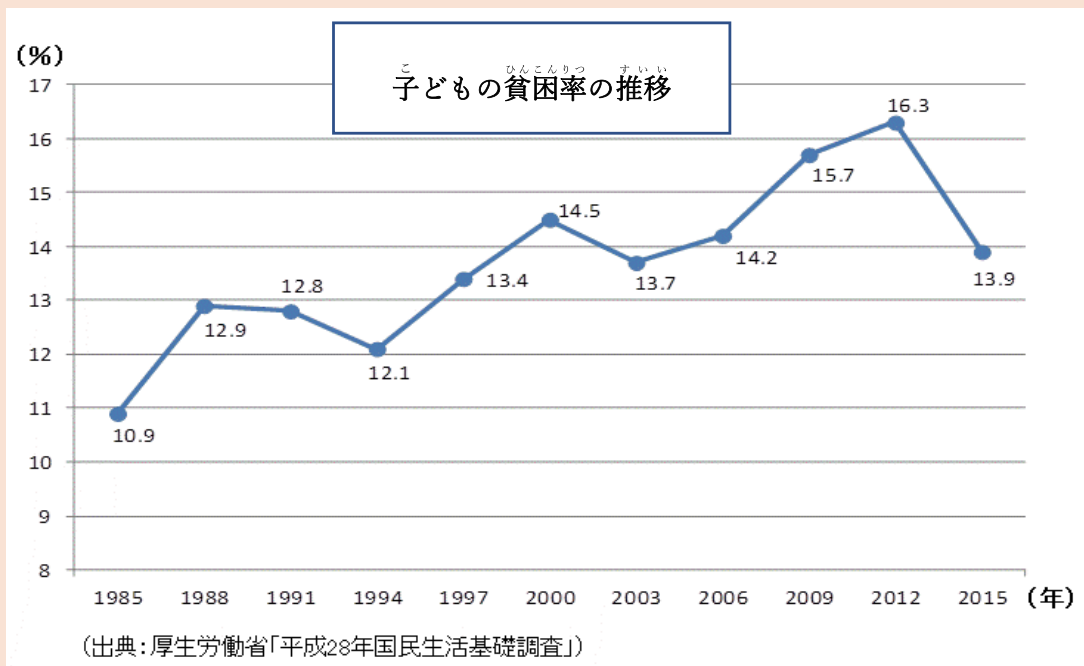


子どもの貧困

いま、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあるといわれています。

貧困状態にあるとは、その時代の社会において、多くの人々が当たり前と
思っているような生活を送ることができない状況です。経済的困窮を背景に教育や
体験の機会が制限され、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置か
れてしまう傾向にあります。しかも、周りからはわかりにくく、住居や衣服の
状況からは、貧困を認知するのが難しいため、支援の手を差し伸べにくいのが
特徴です。



日本における貧困問題で、特に課題とされているのが、「ひとり親世帯の貧困」
です。日本のひとり親家庭の貧困率は2018年時点で48.2%。実にひとり親の
2人に1人が貧困という割合で、これは先進国では最低水準です。

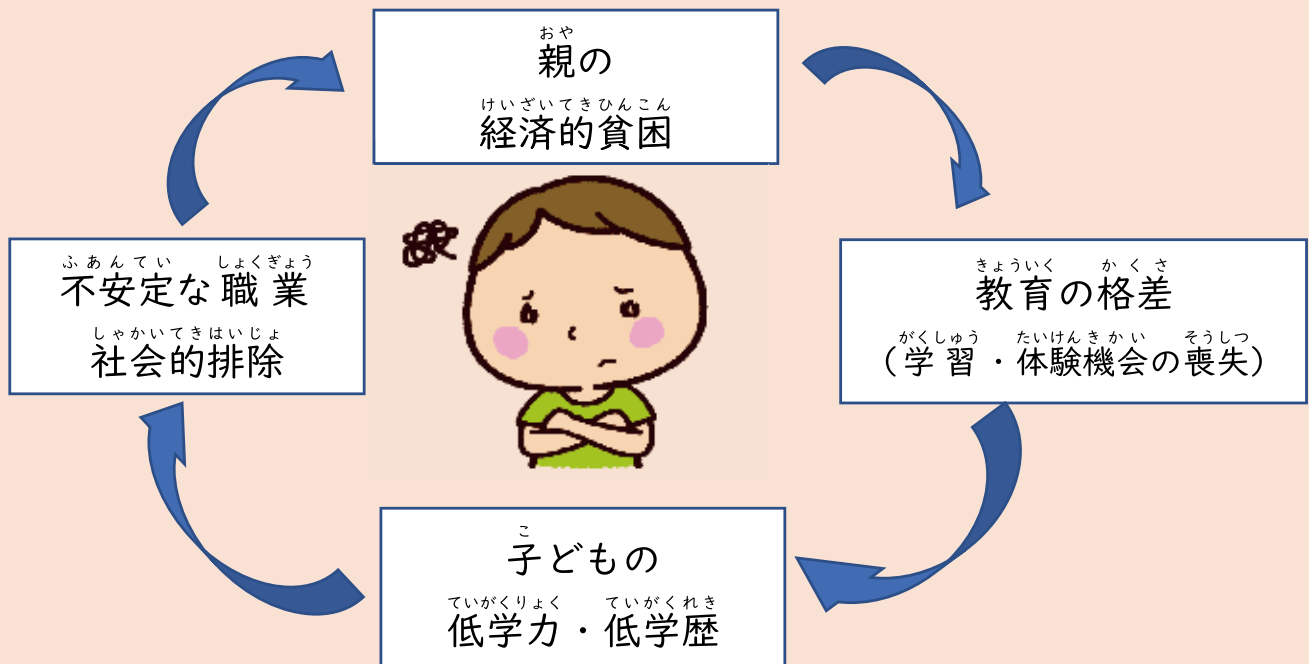
子どもの貧困

「あなたの周りにこんな子どもはいませんか？」

【貧困の子どものおかれている状態（例）】

- ・ 食費を切り詰めるために、食事をとっていない
- ・ 体験学習や修学旅行等の学校行事に参加していない
- ・ 金銭的な理由で希望の進路を断念する
- ・ 家計を支えるため、アルバイトをしている

親の経済的な困難は、子どもにさまざまな影響を及ぼします。子どもが学習や体験の機会を失い、学力が低下し、不安定な就業をすることで、**貧困のスパイラル**に陥るのです。さらに、**貧困**に追い詰められた親が虐待や育児放棄に至るケースもあります。



貧困の連鎖を断ち切るためには、経済的な切り口だけではなく、子どもが安心して過ごせる居場所づくり等の複合的な視点が求められます。